

編集後記

2006 年の 11 月号から編集のお手伝いをさせていただくことになった。私事で恐縮であるが、精神科医になった 30 余年前は、内外の雑誌も情報媒体も現在と比べられないほど少なかったせいもあったろうが、『精神医学』は最新号は無論のことバックナンバーに遡って精読した雑誌の一つであった。歴史と権威があるということもあったが、その内容が general で偏らず複眼的、かつ高度に専門性もあって、食欲をそそられ食べがいがあったからである。いわば大衆食堂のメニューと専門料理とがほどよい按分で配置されていたわけである。編集委員になってはじめて本誌の査読の厳しさを知り、いかに質を維持してきたかを痛感させられた。

どの分野の医学雑誌でも同様だが、その時代時代の“流行り廃り”を反映している。本誌でも、たとえば 1970 年代に入る前後までは、目に見えない心因論や家族成因論が盛んであったと記憶しているが、今ではそれらはすっかり影を潜め、可視的なものや生物学的なもの、評価尺度や数値など、より客観的で“evident”なものが主流である(evident にわざわざ“ ”をつけたのは、「精神医学におけるエビデンスとは何か?」という根本問題が、ヤスパースがこの語を用いてから本格的に議論されたことがないと感じているからである)。

影を潜めてしまったものがもはや無価値ということはない。精神医学では 100 年も前の論文が引用されるくらいである。それらが再浮上することもあるだろうし、逆に昨今主流の見解やエビデンスも将来どうなるかわからない。たとえば、本号で組まれている「精神研シンポ」はそれぞれ高水準の論考で勉強になるが、かといってこれらが 10 年、20 年後どのように読まれるのかは不明である。精神医学の論文はその内容それ自体や医学の進歩によってだけではなく、読み手側の意識によっても評価が変わっていくからである。

我々の扱う領域は、日の下にすべてがくっきりと照らし出された世界ではなく、月光におぼろげに浮かび上がった輪郭の曖昧な一光景であろう。「篝火は眩しく燃えていても、すぐまわりは暗闇のままなのだ」(パペーゼ)。「エビデンス」や「客観的数字」にしても、スッキリはしていてもふくらみがない。幹はあっても枝葉に欠ける。

暗がりに横たわる広がりや切り捨てられた枝葉の豊かさを伝えるのも、general な精神医学雑誌の役目ではないだろうか。個人的には、科学的であると同時に、複眼的にそうしたものも伝えられる雑誌であればと思いつつ、お手伝いしていきたい。(I.M.)

編集委員

飯森眞喜雄

井上 新平

小島 卓也

小阪 憲司

佐藤 光源

三國 雅彦

山崎 晃資

(ABC順)

精神医学 (第 49 巻 第 1 号)

2007 年 1 月 15 日号 (毎月 1 回 15 日発行)

1 部定価 2,625 円 (本体 2,500 円 + 税 5 %)

2007 年 年 ぎ め 予 約 購 読 料 30,600 円 (送料弊社負担)

☎ 販売部直通 (03) 3817-5659・5660

振替口座 00170-9-96693

発行 株式会社 医学書院 代表者 金原優

☎ 113-8719 東京都文京区本郷 5-24-3

☎ 編集室直通 (03) 3817-5711 (担当) 三由・小松原

Fax (03) 3815-7802

E-mail seishinigaku@igaku-shoin.co.jp

URL <http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/seishin/>

印刷所 三美印刷(株) 電話 (03) 3803-3131

広告申込 (株) 丹水社 電話 (03) 3561-1323

- Published by IGAKU-SHOIN Ltd., 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2007, Printed in Japan.
- 本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。
-  (株)日本著作出版権管理システム委託出版物
本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム(電話 03-3817-5670, FAX 03-3815-8199)の許諾を得てください。
- 医学書院ホームページ(インターネット)は <http://www.igaku-shoin.co.jp> です。